

正しく理解しよう! ガソリン購入時の注意点

農作業や草刈りなどのためにガソリン(混合ガソリンを含む)を購入する機会があると思います。ガソリン(混合ガソリンを含む)は携行缶での購入が義務付けられていることをご存じでしょうか? 下記の注意点をきちんと守って、正しい方法で購入してください。

注意!

ガソリンは揮発性が極めて高く、火災が発生すると爆発的に広がる可能性があります。直射日光が当たるなど高温になる場所では絶対に保管しないでください。

ガソリン取り扱い時の注意事項

1 ガソリンは灯油用のポリ容器やオイル缶などに入れることはできません。



〈灯油用ポリ容器〉



〈ガソリン携行缶〉

ガソリン携行缶はご自身で用意を。「試験確認済証」のラベルが付いた製品を選んでください。



2 ガソリン携行缶に貼られている注意事項をよく読んで取り扱ってください。

! 噴出注意!

- ★周囲の安全を確認
- ★フタを開ける前に
 - ①エンジン停止
 - ②エア抜きをする
- ★高温の場所禁止

3 セルフスタンドでも、容器への詰め替えはガソリンスタンドの従業員が行う必要があります。



購入の際には 下記が義務付けされています

- 本人確認(運転免許証の提示など)
- 使用目的の確認
- 販売記録の作成(販売側が作成)



※出典:消防庁「ガソリンの容器詰め替え販売における本人確認等について」(<https://www.fdma.go.jp/mission/prevention/gasoline/tutatsu.html>)を加工して制作

毎月一回
定期開催
普通救命
講習

開催日時 | 6月18日(日) 9:00~12:00

申込締切 | 6月11日(日)

お問い合わせ | 警防課 救急係 ☎42-3952

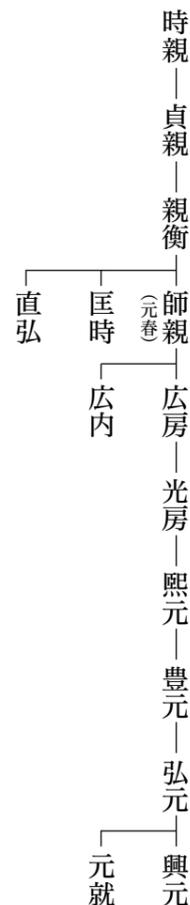


安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 ☎47-1191



郡山山頂と本城(ドローン撮影)

安芸毛利氏略系図



今年、元就以前の郡山城と毛利氏の関係について解説します。

「毛利氏と「吉田城」」

郡山城は近年まで1336年に安芸に移住した毛利時親が築いたとされてきました。しかし時親の築城を示す当時の史料はなく(時親築城説の初見は江戸中期)、時親が吉田荘に住んだのは曾孫師親に家督移譲後、晩年の5年間です。また、当時毛利氏は築城を迫られる緊張状態にありませんでした。

郡山城に関する初見は、1353年の史料にある「吉田城」です。この頃、南朝方であった師親は父親衡と吉田城にもつたものの、北朝方の武田氏の攻撃により降参し、吉田城は破却されます。その後、1376年にも毛利氏の内乱で師親の弟匡時・直弘が吉田城にこもりますが、翌年おのの広房・広内らにより落とされています。

「吉田城」と「本城」

ではこの南北朝期の吉田城とはどこにあったのでしょうか。当時の史料から籠城は一時的であったため、山上に存在したと考えられますが、吉田一帯の立地から郡山が最有力といえるでしょう。

現在の郡山城では、南東尾根の本城(吉田保育所の裏山)が最初に築かれたとされていますが、この本城と吉田城とは限りません。南北朝期は、一時的に「山にこもる」ことが城を構える際の定石であったことを踏まえると、郡山には山頂手前に古代から満願寺もあり、麓に近い本城よりも高い位置にこもる方が自然ともいえます。いずれにせよ、この吉田城はあくまで臨時の城で、郡山城の原形とは言い切れません。

「郡山城」はいつから

郡山城が確実に史料で確認できるのは、さらに後の1453年で、毛利熙元(元就の曾祖父)が家臣の栗屋氏に城の維持管理を務めることを指示しています。また、1489年に毛利氏重臣が郡山に登り、毛利弘元(元就の父)に面会した記録もあります。以上のことから、郡山城(本城)は少なくとも15世紀中頃には毛利氏の日常的な居城として機能していたといえます。



郡山城赤色立体地図鳥瞰図